

# MESSAGE

卒業生からのメッセージ

## 手厚いサポートのもと、競技と勉強を両立 大学で学んだ基本が現場で役に立っています



社会医療法人仁陽会 西岡第一病院  
理学療法士

川島 有紀子さん  
駒澤大学附属苫小牧高校出身

小学校1年生からアイスホッケーを始め、高校時代には世界選手権に出場しました。しかし高校3年生の夏、ケガで日本代表選考から外れてしまいました。そこで「将来競技をやめた後もアスリートとしての経験を生かせる職業はないか」と考え始め、当時お世話になっていたトレーナーのアドバイスで理学療法士を志すようになりました。

大学入学後は日本代表チームの指定強化選手として競技と勉強に追われる日々でした。1期生で学生数が少なかったので先生方との距離が近く、些細なことでも気軽に相談できる雰囲気があり、安心して学生生活を送ることができました。4年次から始まる国家試験対策も手厚いサポートが受けられ、切磋琢磨し合える仲間とともに勉強に打ち込み、合格を果た

すことができました。

現在の職場はスポーツ整形に力を入れており、私は術後の患者さんのROM(関節可動域)訓練や個別トレーニング指導を行っています。学生時代に実習を経験したとはいえ、現場ではわからないことだらけです。自ら患者さんを受け持つようになり、一人ひとりに合った指導を行うために勉強しなければいけないことも増えてきました。同時に、大学で学んだ基本的な解剖学や生理学の知識が現場で最も役に立つことを改めて実感しています。

理学療法士としてのキャリアはまだ始まったばかりです。大学や現場での学び、アスリートとしての経験を糧にして、「この人に担当してもらえてよかった」と感じていただけるセラピストになりたいと思っています。

